

授業改善推進プラン < 英語科 >

(英語) 科 における令和4年度授業改善推進プランの検証

1 学年：全体的に目標値を上回っている。小学校の指導の「知識」はほぼ定着されている。しかし、「思考・判断」「主体的な態度」の総合問題が、目標値より大きく下回っている。「知識」生かす取り組みが必要である。
2 学年：「聞くこと」や「書くこと」は目標値を大幅に上回っている。「読むこと」は目標値に近い結果であったため今後対策が必要。
3 学年：「聞くこと」「話すこと」への苦手意識は少ないが、「文法事項の理解」や「書くこと」への苦手意識をもつ生徒が多い。

(英語) 科 における調査結果の分析

内容別結果の分析	1 学年：「身近な動作を理解する」「音声を聞いて小文字を書く」問題は、昨年度よりも正答率が上がっている。しかし、「小学校の行事を選んで書き写す」問題は目標値よりかなり低かった。(22ポイント)
	2 学年：日々の音読練習やテストが、リスニング問題の高得点へとつながった。今後は長文の読み取り等への対策に力を入れていきたい。
	3 学年：英作文を書く練習をしてきた成果が表れている。並び替え問題への正答率が低いので、文構造の理解度が低い傾向が見られた。
観点集の分析	1 学年：「知識・技能」は目標値より5ポイント以上上回った。「知識・技能・表現」「主体的な態度」 は、目標値は超えたが、わずかに超えた問題も多かった。
	2 学年：目標値に対してすべての観点で上回った。より、差を広げられるように、対策したい。
	3 学年：目標値に対して、全ての観点で上回った。しかし、それぞれの観点において差はわずかであった。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

1 学年：「単語を書き写す」問題が目標値より低かったため、単語や英文を書く時間を確保し、その英文を添削し、生徒がフィードバックする過程を確実に行う。
2 学年：「読むこと」の力を上げるべく、英文を読む量を増やしていく。長文問題を丁寧に扱うようにする。
3 学年：「知識・理解」に関して、これまでやってきた教科書の音読を「やりとり」とリンクさせ、やることに意味を持たせるようにしたい。

(英語) 科 の授業改善策

1 学年：小学校で学んだ事項を発展的に生かすため、自立活動・ペア活動・グループ活動などいろいろな学習活動で英語を自然に、少しでも触れたり、使ったりする時間をつくる。
2 学年：「読むこと」の強化と今回の調査で疑問詞への返答が苦手と分かったため、初見の長文問題を用意し、読む練習と答える練習をさせる中で力をつけさせていく。
3 学年：授業での活動が定期考査などの結果に反映されるように、帯活動等で継続的に行ってきたことを、定期考査の問題で試すなど、指導と評価の一体化のための工夫をしていく。